

現代社会学科

「社会学」「歴史学」「考古学」「地理学」の分野

ニッポンを支える 外国人労働者

教授 二階堂 裕子
(専門分野：地域社会学)

今、私たちの社会を多くの外国人が支えています。ただし、いつまでも外国人がニッポンで働いてくれるとは限りません。この講義では、外国人の就労や生活の状況を取り上げたあと、これからも外国人に「ニッポンを選んでもらう」ために必要なことを考えます。

瀬戸内・岡山の 環境とSDGs

教授 濱西 栄司
(専門分野：社会集団/組織論・環境社会学)

公害やプラスチックごみ問題、太陽光発電。具体的な事例で、気候変動やエコロジー、SDGsについて考えます。地域・行政・企業との連携活動について高校からのアイデアも募集中。

ジェンダーの視点を 使いこなす

教授 山下 美紀
(専門分野：ジェンダー論)

ジェンダー研究は、いまや現代人の必須の知識です。世の中で起こっているさまざまな現象をジェンダーの視点から読み解いてみましょう。新たな発見にワクワクすること間違いなし。

地域社会の フィールドワーク

准教授 福田 雄
(専門分野：フィールドワーク論)

社会学ではさまざまなフィールドワークを行います。2023年度に行った社会調査実習という授業の内容を紹介します。地域社会の貧困や孤立といった問題に取り組むNPOで行ったフィールドワークや調査の模様をもとに、社会問題と向き合う方法を考えたいと思います。

社会の中の“私” ／“私”の中の社会

准教授 中山 ちなみ
(専門分野：社会心理学)

「自分の個性に合った仕事をしたい」「趣味を過ごす時間が一番私らしくいられる」など現代は“私”というものへの関心が高まっている時代です。“私”とはどのように形成されるのか？ 心の中にある社会の存在に気付き、社会とつながる“私”に出会ってもらう授業です。

地図・GISから地域の自然 環境や社会環境を考えよう

教授 森 泰三
(専門分野：人文地理学)

地理学は、「地域」「場所」にこだわって、それぞれで見られる事象について、「探究」する学問です。そこで重要なのが地図であり、課題を発見したり、探究した内容について地図を利用して可視化したりします。また、コンピュータ上のデジタル地図に位置や空間に関する情報を統合したGISも身近にあります。地図やGISから地域の自然環境・社会環境を考えましょう。

Department of
Contemporary Sociological Studies

現代社会学科

「社会学」「歴史学」「考古学」「地理学」の分野

戦争と民衆

—アジア太平洋戦争下の
岡山空襲を素材に—

准教授 久野 洋
(専門分野：日本近代史)

戦争で命を落とすのは、たいていの場合、権力者ではありません。戦場に行く兵士であり、私たち一般の市民です。過去に戦争が起こったときに、権力者たちはどう振る舞い、社会はどうなったのか。本講義では、岡山空襲を素材にして戦争と民衆の関係を考え、歴史を学ぶ意味を問い直します。

「纏足(てんそく)」から みた中国文化

教授 鈴木 真
(専門分野：アジア社会史)

かつて中国には、「纏足(てんそく)」と呼ばれる独特な文化が存在しました。これは女性の足の成長を阻害し、人為的に小さな足をつくりだすものでした。現代日本とは異なる価値観の下で行われたこのような文化が、千数百年にも亘って続いた背景を解説します。

中世ヨーロッパの騎士

教授 轟木 広太郎
(専門分野：ヨーロッパ社会史)

ヨーロッパの中世はよく騎士の時代といわれます。騎士はたしかに戦場、社会、文化の中心にいました。その戦闘方法、領主としての生活、文学とのかかわりについて紹介します。

考古学の力

教授 紺谷 亮一
(専門分野：考古学)

私はトルコ共和国キュルテペ遺跡で発掘をしています。トルコを含む西アジア地域は、都市・農耕・牧畜・文学・交易が地域に先駆けて開始された場所です。つまり、かつて人類史において最も先進地域だったのです。この点を明らかにしたのは考古学の力です。では、考古学にはなぜそのような力があるのでしょうか？